

こども
子供のインターネットバイブル
あんない
案内いたします



おうひ
うつくしい王妃
エステル

ぶん
文: Edward Hughes
え
絵: Janie Forest

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki 監修者: Dan Ellrick
しゅつばんしゃ
出版社: Ruth Klassen

60話の第30話

www.M1914.org

Bible for Children, PO Box 3, Winnipeg, MB R3C 2G1 Canada

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。

日本語

Japanese

むかしのこと、エステルという名前なまえのうつくしい女おんなの子こがいました。エステルのお父さんとお母さんは、早く亡なくなってしまい、それからじよはかの女のおじさんモルデカイが、エステルを育てるようになりました。エステルは、まるでおじさんのほんとうのむすめむすめのよう！おじさんをそんけいし、言うことをよく聞くときてもよい子でした。



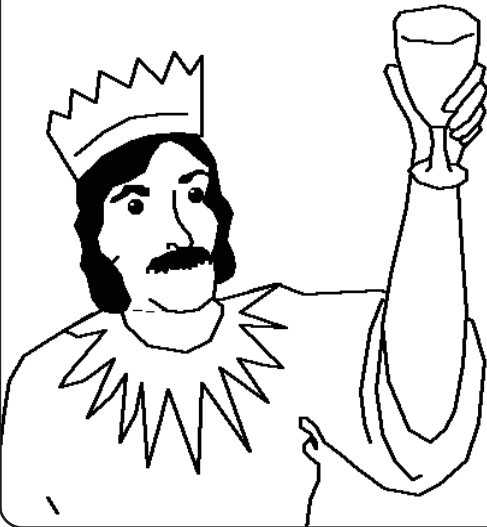
1



エステルは、ペルシアペルシアに住んでいました。でもね、ペルシア人じんでは、ありません。ユダヤ人じんです。かの女のずっとずっと前まえの、おじさんやおばあさんたちは、せん争そうのとらわれ人ひととして、ペルシアにつれて来こられたからです。エステルじだいの時代には、たくさんじんのユダヤ人が、ペルシアに住んでいました。

2

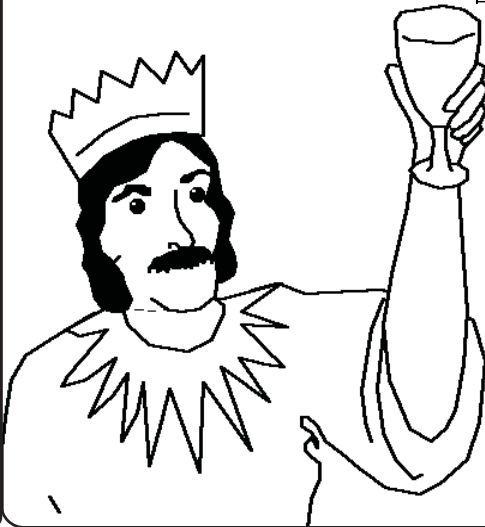
あるとき、ペルシアの王さまは、世界中の高位にいる人たちをあつめ、



大きな大きなえん会をひら
きました。男の人たちは、
みんなあつまって、ごちそ
うを食べていましたよ。
女の人たちもまた、
ずっとはなれたところでワ
シュティ王妃といっしょに、
えん会をしていました。

3

そのとき、お酒によつた王さまが、ワシュティにめいれいして、



言いました。「ワシュティよ、
女王のかんむりをかぶり、
あなたが、どんなにうつく
しいか、みんなに見せて
やりなさい。」でもね、
ワシュティ王妃は、
ことわたのです。
「いいえ、王さまそれ
はできません。」

4

女の人
は、
自分の夫をうやまい、
したがわなければなりません。

王さまは、このことを、
みんなに知らせるために、
法のきまりどおり、ワシュティ王妃の
かんむりを取りあげてしまいました。
いまはもう、ワシュティは、
王妃ではなくなっていました。



5

さて、

あたらしい王妃さがしが、
はじまりました。
この国のたくさんのうつくし
い少女の中から、王さまは、
いったいだれを自分の王妃に
えらんだのでしょうか。
そう、エステルです。



6

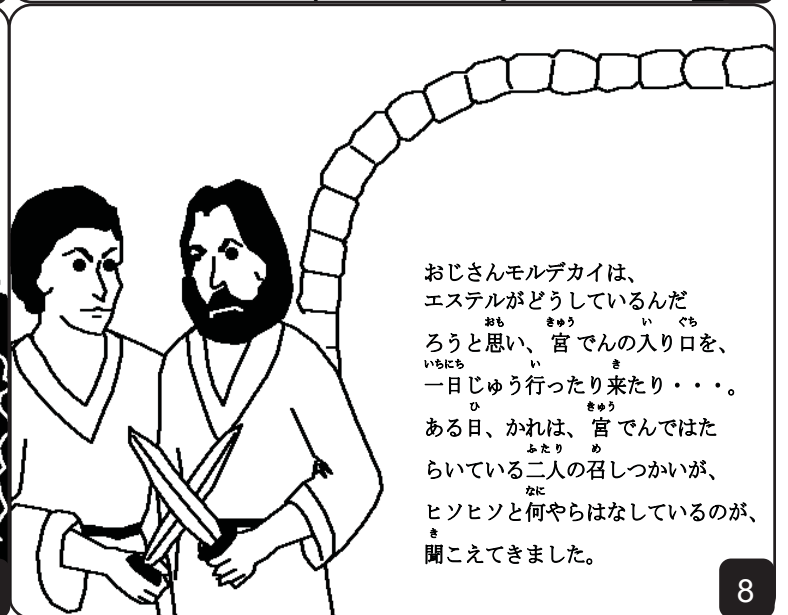
エステルが王さまのお
くさんに、えらばれましたよ。

王さまは、エステルのあたまに、
王妃のかんむりを、かぶせました。

そのとき、エステルは自分は、
ユダヤ人であることを、
王さまに言いませんでした。
どうしてって、おじさんモルデカイが、
言わないようにって言ったからです。



7



おじさんモルデカイは、
エステルがどうしているんだ
ろうと思ひ、宮でんの入り口を、
一日じゅう行ったり来たり・・・。
ある日、かれは、宮でんではた
らいている二人の召しつかいが、
ヒソヒソと何やらはなしているのが、
聞こえてきました。

8



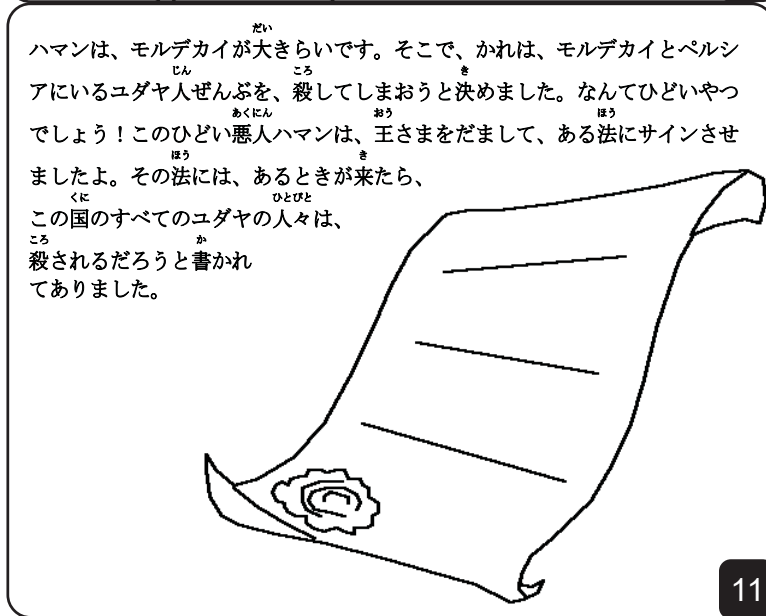
どうやら、
 王さまを殺そうと計画しているようです。
 王さまの命をすくわなければと思った
 モルデカイは、すぐ、
 このことを知らせたのです。それで、
 その二人の召しつかいは、しば
 り首になってしまいました。
 このことで、モルデカイの名まえは、
 王さまのきろくの本にのせ
 られるようになりました。

9



王さまのつぎに、力をもっていたのは、
 ハマンと呼ばれるお金もちの男の人でした。みんなは、
 ハマンがおとるたびに、あたまを下げおじぎをしま
 したよ。あれっ、みんなでしょうか？いえいえ、
 一人だけおじぎしませんね。その人は、モルデカイ。
 ユダヤ人のかれは、ただ生ける神さまにだけ、
 あたまを下げて礼拝しました。

10



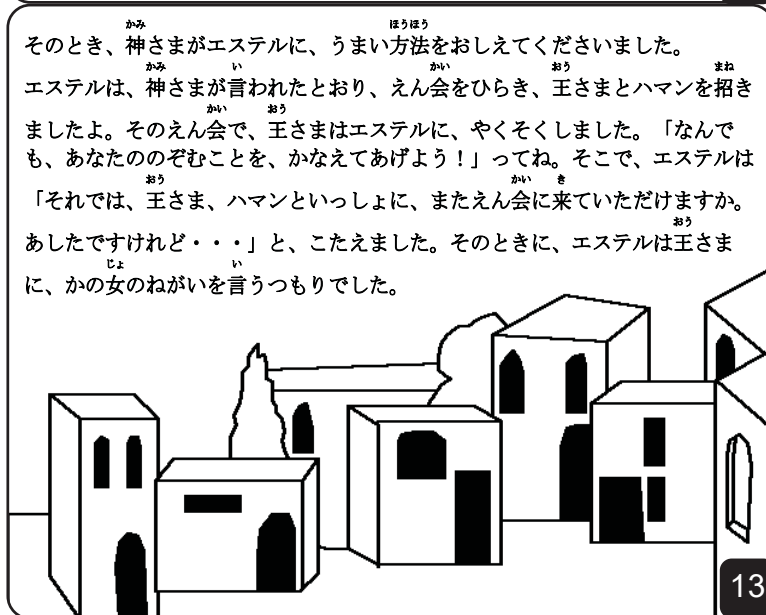
ハマンは、モルデカイが大きらいです。そこで、かれは、モルデカイとペルシ
 アにいるユダヤ人ぜんぶを、殺してしまおうと決めました。なんてひどいやつ
 でしょう！このひどい悪人ハマンは、王さまをだまして、ある法にサインさせ
 ましたよ。その法には、あるときが来たら、
 この国のすべてのユダヤの人々は、
 殺されるだろうと書かれ
 てありました。

11



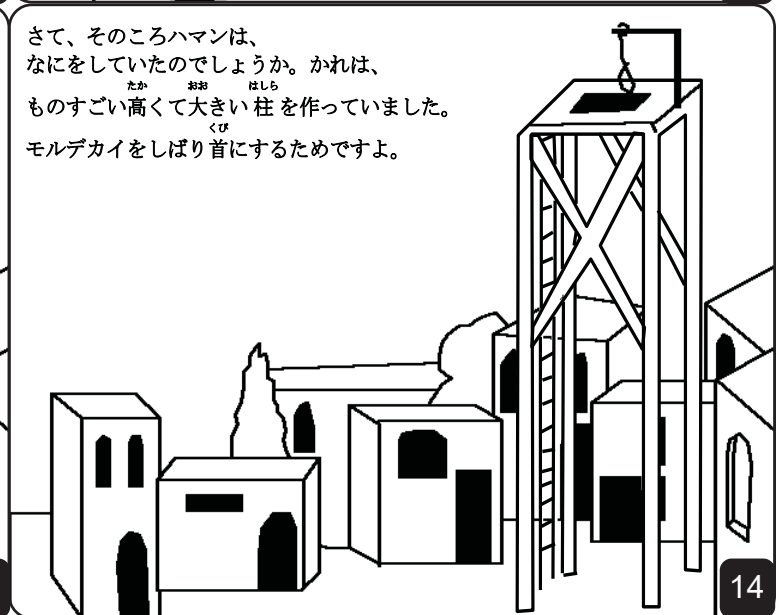
ほんとうに、
 ひどい法ですね。
 ユダヤ人もペルシア人も、
 なげきかなしました。でも、
 みなさん、おぼえていますか？神さまは、
 エステルを王妃にされたでしょう。たしか、
 エステルはユダヤの人でしたよ。エステルは、
 自分がユダヤ人っていうことを、王さまにひみ
 つにしておくつもりでしょうか。それとも、
 死をかくごして、ユダヤの
 人々を助けようとするのでしょうか。

12



そのとき、神さまがエステルに、うまい方法をおしえてくださいました。
 エステルは、神さまが言われたとおり、えん会をひらき、王さまとハマンを招き
 ましたよ。そのえん会で、王さまはエステルに、やくそくしました。「なん
 でも、あなたのぞむことを、かなえてあげよう！」ってね。そこで、エステルは
 「それでは、王さま、ハマンといっしょに、またえん会に来ていただけますか。
 あしたですけれど・・・」と、こたえました。そのときに、エステルは王さま
 に、かの女のねがいを言うつもりでした。

13



さて、そのころハマンは、
 なにをしていたのでしょうか。かれは、
 ものすごい高くて大きい柱を作っていました。
 モルデカイをしばり首にするためですよ。

14

そのよる、王さまは、なんだか眠れません。
そこで、王さまのきろくの本を、
あけてよみながら、気がつきました。
モルデカイは、
自分の命を助けてくれたのに、
何ひとつほうびを、
もらっていませんでした。



15

つぎのあさ、王さまは、
ハマンにたずねました。
「王をよるこぼせた人に、
いったいどんなことをすれば、
いいのだろうか。」
それを聞いたハマンは、
大よろこび! だって、
ハマンは、
こう思ったからです。



王さまは、
自分のことを言ってく
ださってるんだってね。

16

じつは、その日、ハマンは王さまに、
モルデカイを首つりの刑にするおゆるしを、
いただくやとやって来たのです。首つりの柱は、
もうすっかりできあがっているのですから。
でも、もう少し待つことぐらい平気です。



17

それよりもハマンは、
うれしくてうれしくてたまりません。
自分のかんがえを、一気に王さまに、話しましたよ。
「王さま、その人に王さまの服を着せ、
かんむりをかぶらせてください。」



18

「また、かれを王さまの馬にすわらせてください。
そして、王さまに仕える一ばんえらい者にめいれいして、
町みんなが、その男の人を見るように、
あんないさせてください。」 「さあ、いそげ!
ユダヤ人モルデカイに、そのようにしてやりなさい!」
王さまは、ハマンに、
こうめいれいしました。



19

モルデカイをうやまい、あたまを下げて、
町をまわって行くことになってしまったハマン。
みなさん、かれはどんな気持ちだったと思いますか。
きっとかれは、前よりもっともっと、
ハマンがきれいになったこ
とでしょうね。

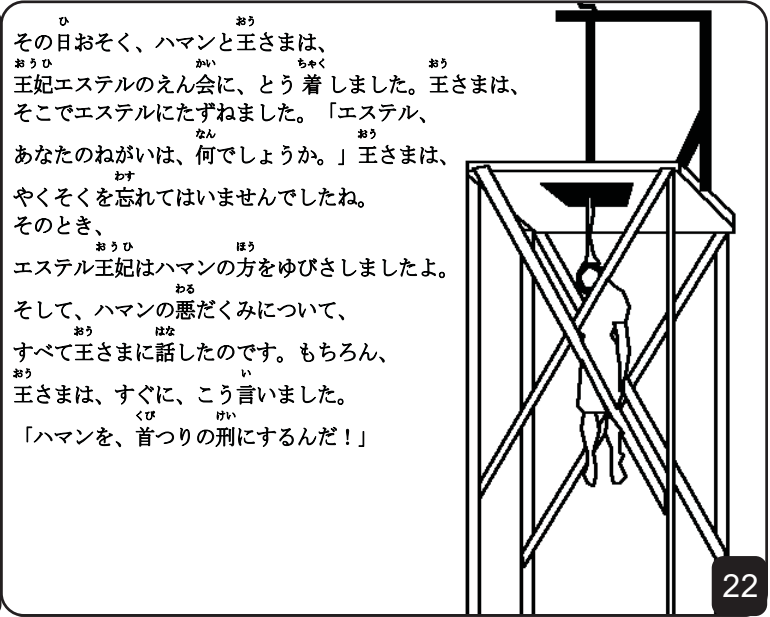


20



また、ハマンは、
このようにも思ったかもしれませんね。「うーん、
ちょっと待てよ。モルデカイは、どうせ死にしまうんだ。
ほかのユダヤ人みんなといっしょにね。」って。

21



その日おそく、ハマンと王さまは、
王妃エステルへのえん会に、とう着しました。王さまは、
そこでエステルにたずねました。「エステル、
あなたのねがいは、何でしょうか。」王さまは、
やくそくを忘れてはいませんでしたね。
そのとき、
エステル王妃はハマンの方をゆびさしましたよ。
そして、ハマンの悪だくみについて、
すべて王さまに話したのです。もちろん、
王さまは、すぐに、こう言いました。
「ハマンを、首つりの刑にするんだ！」

22



それから、王さまは、ユダヤの人々が、
自分たちで自分たちを守ることができるよう、
もうひとつの法りつを作ってくださいました。
ほんとうによかったですね。
殺されずにすんだのです。

23



また、モルデカイは、王さまの次にえらい者となりました。人々は、
おたがいにおくり物をして、心からよろこびあいましたよ。
ユダヤの人たちは、今でも決してわすれていません。神さまが、
うつくしいエステル王妃をとおして、どのようにかれらを助けて
くださったかということ。

24

うつくしい王妃 エステル

神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

エステル記

あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

詩篇 119:130

神さまは、私たちがよくないことをしたことを、しっぺいらっしやいます。
神さまは、それを罪とよばれています。罪のむくい、死です。

神さまは、私たちをととも愛されたので、み子イエスをこの世におくってくださいまし
た。そして、イエスが十字架で亡くなられることによって、私たちの罪をとってくだ
さったのです。イエスさまは、よみがえられ天国へ
もどられましたね！ですから、今、神さまはあなたの罪をゆるしてくださいます。

もし、あなたがあなたの罪からはなれたいなら、神さまにこう言ってください。
愛する神さま、私は、イエスさまが私のために亡くなってくださり、よみがえって、今また
生きていらっしやることを信じます。どうか、私のこころの中に入り、罪をゆるしてくださ
い。それで、私は今、あたらしい命をいただくことができます。そして、いつまでも、あな
たといっしょにいることができるのです。あなたの子として、生きることができますよう、
たすけてください。アーメン

ヨハネによる福音書 3 : 16

まいにち、聖書をよみ、神さまと、おはなししましょう！